



批判的思考

昨日返却した、いわゆる「新テスト」に向けた学力を測定する「グローバルリテラシー&スキルテスト」について補足しておくので、これからの学習の参考にしてほしい。

そもそもあのテストは、答えのない問題に立ち向かっていかなければならない君たち世代にとって必要とされる学力とは何かという課題に対して、それは①批判的思考 ②創造的思考 ③協働的思考 に基づく問題解決能力であると設定し、それが現在どの程度身についているのか、そして、それをさらに高めるためにはどうしたらよいかを提案するという側面ももっていた。

ちなみに、「新テスト」では、現在のセンター試験が中心的に評価する「何を知っているか、何ができるか」のみでなく、「知っていること・できることをどう活用するか」の力を問おうとしている。だから、記述式の解答が検討されたりしているわけだ。

*

さて、「批判的思考」の例題として、

(非公開)

という課題があったのを覚えているだろう。それに対して、君たちは一体どのような論を展開したのだろうか。

「模範」解答例が示されたわけではないのだが、例えば次のような解答例が披露された。

(以下非公開)

D
C

B
A
S

*

D～Sが評価であるが、では、それぞれの評価の分かれ目はどこだろう。

簡単に述べれば、Dは「自分の意見が述べられているだけで論理性のないもの」である。Cは「比較はないが、論理性はあるもの」。Bは「共通点（または相違点）のどちらかの分析が論理的にできているもの」、そして、Aは「共通点や相違点の分析が論理的にできているもの」である。

日比谷の場合、しっかり取り組んだ諸君はほとんどがBのレベルをクリアしていて、Aのレベルに達している人も多い。しかし、Sの「経験を踏まえて自分の意見を論理的に付け加える」というレベルに達している人は少なかった（他校もまったく同じ）。

そこまでの解答が求められるとは思っていなかったという人も多いかも知れないが、これから求められる「学力」とはそういうものなのである。

しかし、ここにこれからの学習のヒントもある。何かを組み合わせることで分析し、論理的に考えること、そして、その上で自分の意見を付け加えてまとめること。これを意識しよう。